

第 67 回全国 P T A 連合会大会静岡大会
参加報告書（その 1）

会長 當郷 裕之
副会長 平 正美
副会長 丸田 学

「有徳の人」づくり
～未来のために行動する「一人」を育てよう～

【大会趣旨】

静岡県はいま『有徳（ゆうとく）の人』づくりをすすめています。

有徳の人とは、個人として自立した人、人との関わり合いを大切にする人、より良い社会づくりに参画し、行動する人を意味します。

少子高齢化、経済のグローバル化、情報社会の進展など、いま日本は大きな変革の時代を迎えています。同時にフリーターやニートの増加、地域産業の空洞化、経済格差の拡大、情報モラルの低下など、様々な課題も抱えています。このような時代にあって求められるのは、地域の、日本の未来のために行動する「徳」を備えた人材ではないでしょうか。そんな「有徳の人」を育てるために、子どもたちが高い志をもって学び、未来を切りひらく力を養うことができる環境を整えていくことが、私たち P T A の使命であり、また社会の責務であると考えます。

このような思いから、第 67 回静岡大会はメインテーマ『有徳の人』づくり」としました。そして、サブテーマを「未来のために行動する『一人』を育てよう」としました。

有徳の人。それはたとえるなら、独立して頂き高く美しくそびえ、社会のなかに豊かなすそ野を広げていく、「富士山」のような人。誰もが憧れてやまない世界文化遺産「富士山」に見守られながら、静岡大会をとおしてお互いに学び、交流し、語りあいながら、絆を深めていきましょう。

大会には、全国から P T A 関係者、約 9, 4 0 0 人の参加があり、開会式では静岡県の杉浦政紀実行委員長、全国高等学校 P T A 連合会牧田和樹会長の挨拶、林芳正文部科学大臣、川勝平太静岡県知事の祝辞などが続き、表彰式では、鹿児島県関係では、2 団体 2 個人が表彰されました。

基調講演では、静岡大学名誉教授の小和田哲男氏が、「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」という演題で講演がありました。小和田氏は静岡県出身の歴史研究家で、特に戦国時代が専門で、「おんな城主 直虎」などの NHK 大河ドラマの時代考証も担当されているとのことでした。いろいろな戦国武将のエピソードを交え、戦国時代は、今の学校の代わりとして、お寺が修行や教育の場であったこと、また、親から子・孫への教育として、「武辺咄（ぶへんばなし）」という自分の経験談をよく話して聞かせたことなどを紹介していただき、たいへん興味深い、参考となる内容でした。

午後の分科会では、第4分科会に参加しました。テーマは「家庭教育とPTA～『有徳の人』を育てる家庭教育の充実～」というもので、4校の事例発表と研究協議が主な内容でした。

- ① 北海道室蘭清水丘高等学校「子ども達を見守る大きな輪」
- ② 東京都立板橋高等学校「輝く未来に向かって、新たな伝統を」
- ③ 兵庫県立尼崎稲園高等学校「伝える力～PTA・地域・人とつながり～」
- ④ 香川県立高瀬高等学校「学校と繋がり、子どもと繋がる～学校とともに育む人間力～」

それぞれの学校や地域の紹介、PTAの取組等の説明がありました。保護者の学校生活・行事等への積極的な参加のなかで、親も楽しみ、子ども達の活動と一緒に関わっている姿を見せることで、「人間力」を感じさせる。大人が子ども達と同じ目線で接することが大事であり、地域や家庭教育、また、人々との関わりの中で子供たちを育てていくことが大切ではないかとの発表がありました。

助言者である静岡産業大学教授漁田俊子氏からは、親から子への片思いの時期ではとの話があり、親の背中を見せることにより、将来像を具体的に感じとり、自らが「人生の座標」に描いていけるよう見守っていくことが大事であり、周囲との関わりにより人間力の向上を図れるのではとの意見がありました。

また、静岡大学教育学部非常勤講師石田純夫氏からは、不安感情に蓋をしている時期であり、高校生（子）のペースで大人がいてあげる。やりたいことをやらせてあげる。子どもが主役、家庭、地域が子どもを見守ることにより、自己肯定感を育むことが必要であり、子どもを主役にした取組を実践することが大切ではとの意見がありました。

大会2日目は、全体会で記念講演と閉会式が行われました。記念講演はトークショーの形で、静岡県出身の俳優笈利夫さんが「これがおれの生きざまだ！」と題して、高校時代の思い出、両親や年齢の離れた兄弟との関係、俳優を目指した理由などを、飾らず気さくに話していました。中学の卒業式に「僕は俳優になります」と宣言したこと、高校ではバスケットボール部の練習だけは欠かさず参加していたこと、なりたい自分を鮮明にイメージすることなどを、時に笑いを誘いながら、時に真面目に答えていたのが印象的でした。

大会全体を通じて、各地のPTA活動の取組が大変参考になりました。静岡県PTAの方々の参加者への「おもてなし」も素晴らしかったです。貴重な経験をありがとうございました。子どもたちの教育活動の充実に向け、工夫改善を図りながら取り組んでいきたいと感じました。

参加報告書（その2）

会長 當郷 裕之
副会長 平 正美
副会長 丸田 学

第 67 回全国高等学校 PTA 連合会大会が、8 月 24 日・25 日に静岡で開催され、参加させていただきました。

大会 1 日目の開会式では、地元静岡の横須賀高校郷土芸能部によるアトラクションが行われました。高校 PTA の大会に参加するたびに、各地域の郷土芸能部がアトラクションをしてくださいますが、どの会場のどの発表もとても興味深く、それぞれの地域の歴史を感じつつも見る者には真新しい新鮮な感動を与えてくれることを改めて感じ、奄美の歴史と文化も大事に継承していかなければいけないな！と感じました。

全体会では、静岡大学名誉教授の小和田哲男氏による基調講演が行われました。小和田氏は NHK 大河ドラマの時代考証も担当しておられる方で、歴史上の人物を、まるで傍で見ていたかのように話されるので、歴史が得意ではない私たちも、話に引き込まれました。

戦国時代は、一家に男の子が何人か生まれると、権力争いを避けるために、次男か三男以降はお寺に修行に出していた。しかし、そこでいろいろと学んだ子の方が出世することも多々あった。また、お寺に修行に出すのには、人殺しを仕事とする武将が「一子出家(いっしゆつけ)すれば、九族(きゅうぞく)天に生(しょう)ず」という教えに救いを求めている一面もあるのでは…。という話もありました。では、身分の低いものはどうしていたか…というと、読み書きのできない農民・村人が代表を街道に立たせ、通りすがりのお坊さんに「急ぎでなければ村に寄って子供たちに勉強を教えてください。」と頼み、食事や住居を与えて子供たちに学ばせていた地域もあった。日本人は、昔から教育熱心だったのではないかというお話もありました。

伊達政宗は身長が 159,4 cm だったそうですが（笑）、当時、武辺咄(ぶへんばなし)というのが盛んにおこなわれていたそうです。これは、自分の体験談を子供や孫・家臣に話し伝えるもので、伊達政宗は、武辺咄の途中でトイレに立った我が子に「途中退席は許さない」ときつく叱ったこともあるそうです。今も昔も、体験に勝る教科書はなく、親の背中を見て子は育つのかな～とか、大高生は、何事にも全身全霊を尽くして頑張るから見る者に感動を与えるのかな～などと感じることでした。

また、傲慢だった徳川家康は、武田信玄に大敗した事がありますが、その時たくさんの家臣が命と引き換えに助けてくれたことを機に「家臣こそわが宝」と心境が変わり、後の活躍へと繋がっていったエピソードも含め、「名将というものは大敗を経験しているものだ」という事も武辺咄(ぶへんばなし)で語り継がれたそうです。

平均身長が約 160 cm だった時代に、154 cm と小柄で華奢だった豊臣秀吉は、話術の天才だった。子供の頃は貧しく、針売りの仕事をしていた。それで対話が上手になった。その話術を戦略に取り入れ、スパイとして敵地に送り込み成功を勝ち取ったのが織田信長である。埋もれた才能をどう掘り当て見出し褒めるかが非常に大事！というお話もありま

した。

一日目の午後からは、各分科会に分かれ、私は「有徳の人」を育てる防災・減災教育の推進という分科会に参加させていただきました。静岡は災害に対する意識が高い地域という事で、ここでは、高校生2人を含む8名によるパネルディスカッションが行われました。

それぞれが被災地に行き感じたことや、現在取り組んでいることについて語られました。その中で、災害を減らす「減災」ではなく「被災者0」を目指そう！という話があり、今の日本人は、色々な技術が進歩している故に、「大丈夫」という根拠のない安心感が生まれ、災害に対する対策・準備をしていなかったり、災害時の行政や各機関に対する不満や要望を言うだけの人が増えているのでは…。不便だった昔の方が「もしも」への準備ができていたのではないかと。また、自力で何とかしようという意識があったのではないかと…。という意見もありました。

それを踏まえて、やはり、防災訓練は、年代を飛び越え、地域ぐるみで行うべきで、ある地域では、出席カードを配り学校に提出するという形で半強制的に生徒を参加させるところから始めたそうです。

実際に災害が起こり、学校が避難所になった地域では、学校が避難所という状態が数か月続くことが多く、そのことから、学校の先生方を災害の対策本部の中心に置くと、学校の再建が遅れるので、やはり地域の方が頑張らなければいけない！また、何といても、コミュニケーション能力が非常に大事になってくる。なので、地域の方を含め、異種異年齢のたくさんの方で防災訓練をすべきである。半強制的に始めた地域も、回を重ねていくうちに、参加していた学生が社会人となり、先輩が後輩にアドバイスする光景も見られるようになってきたそうです。

2日目は、俳優の筧利夫氏のトークショーが行われました。小学生の時は、破天荒な子供で、急に奇声を発したり、集団に向けてロケット花火を飛ばしたり、周りの大人をだいぶ悩ませたそうです。それが、6年のお正月に担任が喪中で年賀状を出さなかったことを、「頭の悪い子には年賀状もくれないのか」と勘違いし、見返すために猛勉強。結果、中学3年間の成績はトップで、人生で一番モテた時期だと言っていました。

自分の子供を信じて待つのも、親への試練？と思ったり、前述した「隠れた才能」をみいだすのが、大人の大事な仕事なのかも…と感じました。

充実した会に参加し、貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。